



民主党プレス民主編集部  
〒100-0014  
東京都千代田区永田町 1-11-1  
電話 03-3595-9988(代表)  
press@dpj.or.jp  
http://www.dpj.or.jp  
民主党愛知県総支部連合会  
名古屋市東区泉 1-12-34  
セントラルアベニュー1223 9F  
電話 052-951-7881  
http://www.minshu-aichijp/

地域から歩く、聴く

号外あいち  
2013 年 9 月号

## 第 23 回参議院議員選挙、議席を維持 統一地方選挙に向けて愛知県連の更なる強化を！

去る 7 月 21 日に投開票となりました第 23 回参議院選挙におきまして、党员・サポーターの皆様をはじめ、多くの支持者の皆様のご支援により、愛知県選挙区の議席を確保させていただくことができました。改めて全ての関係者の皆様に感謝を申し上げつつ、今後とも県連一丸となって全力で職責を果たしてまいることをお約束申し上げます。

昨年の総選挙、今回の参議院選挙によって、国政は新たな勢力図となりました。2009 年、2012 年と立て続けに政権交代が起きましたが、政策課題そのものは変わることなく、また政策課題が手品のよう



に解決されるわけでもありません。私たちは、自らの役割を再確認しつつ、それらの課題に対して私たちが果たすべき職責を全うしていかなくてはなりません。政治に終わりはありません。

私たちは、引き続き、人を大切にする政治、次世代に負担を先送りしない政治、自然と平和を重んじる政治を目指し、ひとり一人が真摯かつ地道に職務に取り組んでいかなくてはなりません。

そうした観点から、県政や県内市町村政において私たちの意見や考え方を反映し、その職責を果たすためにも、また、国政においてバランスを回復するためにも、来たるべき再来年の統一地方選挙において、県連所属議員及び友好議員の数を増やすことが当面の重要な目標となります。

県連としては、統一地方選挙に向けた政策の整理・検討を進めてまいるとともに、早急に候補者選定作業に着手します。

南海トラフ三連動地震が逼迫する中での防災対策、日本経済の牽引役である愛知県としての雇用・産業・インフラ対策、少子高齢社会を乗り切るために全国のモデルとなるような子育て・医療・介護施策など、県連として手がけなくてはならない政策は枚挙に暇がありません。

私たちは、愛知県における重要な政治集団として再生と前進を図ります。引き続き、ご指導、ご鞭撻、ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

県連代表・参議院議員  
大塚 耕平



ホームページ <http://www.minshu-aichi.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/minshu.aichi>

# 第23回参議院議員選挙 愛知県連 総括(抜粋)

■投票率	全国平均	比例区	52.61%	選挙区	52.61%
	愛知県	比例区	52.66%	選挙区	52.65%

## ■愛知県選挙区当選者

当落	得票数	候補者名	期数	前職・新人
当	1,056,145	酒井 庸行	1期	自新
当	741,598	大塚 耕平	3期	民前
当	347,411	薬師寺道代	1期	み新
落	271,278	本村 伸子		共新
落	263,918	近藤 浩		維新
落	152,038	宇田 幸生		減新
落	62,985	平山 誠		み前
落 (以下略)	47,104	伊藤 善規		社新



ジョギング街宣を行う大塚耕平参議院議員(中央)、  
近藤副代表(左)と県連青年委員

## ■はじめに

- 今回の厳しい選挙を戦った候補者の奮闘、それを支える党员をはじめ所属議員、友好議員、連合愛知をはじめとする支援団体、そして支援者の皆さん、県民の皆さんのご支援に心から感謝申し上げます。
- この第23回参議院議員選挙は、党の再スタートと位置付け、党の再生をかけた絶対に負けられない選挙として臨んだ。支持率の低迷が続く厳しい情勢ではあるが、単なる国政選挙にとらえるのではなく次の衆議院選挙、そして2年後の統一地方選挙を見据えた活動を展開してきた。

## ■対策本部の取り組み

- 県連対策本部の選対委員長を中心に、副代表、幹事長が各総支部に設置した地域選対の会議に順次参画し、情勢や課題の共有、県連全体の選挙戦術の確認、各総支部における情勢等の把握と意見交換などに力を注いだ。

- 各総支部選対は6月中旬までを目途に、それぞれ関係する地域協議会と懇談会を実施、選挙戦に向けた対応を確認しあった。

## ■課題等

- 候補者が県連代表でもある大塚耕平氏であって、単にひとつの選挙ではなく、まさに県連の命運をかけた戦いであった。そのことに真摯に取り組む候補者の姿勢が評価され、加えて党議員の活動や連合愛知をはじめとする支援組織の最大限の協力体制と奮闘など、全国的にも結党以来の非常に厳しい情勢の中であったが民主愛知の総合力と粘りを発揮し3人区以上の複数選挙区での貴重な議席を確保した。しかし、3月の県連定期大会で決定した参院選方針である70万票台の獲得は果たしたものの、一位当選の自民党候補に約30万票の差を付けられたことは大きな反省材料である。また、比例代表得票では衆院選での63万票から今回53万票となっており、衆院選と参院選の投票率に違い(6ポイント減)はあるにしろ党勢の減少が続いていることを現している。
- 党勢の減少が大きく影響し、地域での票の積み上げが不足したことは否定できない。特にこの間の地方選挙での敗北による「地方議員の減少」や衆院選結果による党勢の低下などから地域運動量などの力量格差が見られた。また、党勢低下を補う「アイデアや選挙運動内容」の取り組みが展開できなかったことは候補者選対含め県連全体の反省課題である。
- 地域選対においては、15の衆院総支部ほぼ全てに地域選対が構成され候補者選対からの要請や総支部独自の活動などをこなってきた。その結果が今回の候補者得票に繋がっており、いかに総支部選対が重要であるかを再認識した結果といえる。全県を選挙区とする参院選においては、15の衆院総支部の支援なくしては戦えず、それらを束ねる参院候補者総支部のコーディネート力も重要である。今後は更に衆参全総支部の秘書能力アップと選挙実務を担える人材の育成を図っていく必要がある。



直ちにこれから仕事をさせて頂くと語る  
大塚耕平参議院議員

## 第 23 回参議院議員選挙 民主党総括(抜粋)

2012 年総選挙、2013 年東京都議選、参院選を通じて、民主党は未だ「拒否されている政党」となっていることを明確に認識し、国民からの信頼を再度回復し、改革政党としての原点に立ち返るためにも、解党的出直しが必要である。

### ■再生への課題と取り組み

- 民主党の存在意義、めざす社会像等が新綱領によって方向づけされつつも、その実現するための政策体系と具体的な政策、そのプロセス等が未だ鮮明になっていないため、全党的な議論によって確立された理念やめざす社会像を希薄化させ、脆弱なものとして印象付けていることが、都道府県連や候補者からの声でも明らかである。
- 民主党が再び国民の信頼を回復し、魅力的な選択肢としての地位を占めるためには、まさに理念と社会像を具現化する政策体系の確立が必要であり、そのためにも政権与党としての失敗の呪縛から脱するとともに、政権担当の教訓を活かした民主党の輪郭を鍛え直すことが求められている。特に野党にあるいま、揺るぎない理念に基づき、常に政権与党との対立軸を具体的に国民に明示していかなくてはならない。
- 経済政策は社会を支える中間層をより豊かに、より厚くする具体的な政策、そのことを軸として低所得層の引き上げ、国民全体の生活と雇用を安定、向上させる政策を確立しなければならない。市場の縮小、労働力の低下、経済格差の拡大、国際競争の激化などの困難な課題の克服する真の経済改革案を提起し、十分な議論を通じて国民の理解を得て、その実現力を備えていくことが必要である。

### ■抜本的な地方組織強化・体質改善

- 地域の課題を解決する組織としての民主党地方組織の確立である。国政選挙対策のためだけでなく、地方選挙対策のためだけでなく、地域における様々な課題を吸収・集約し、地域の課題を共同で解決する組織としての民主党地方組織のあり方を、改めて検証・検討していく必要がある。地方における各種選挙で、民主党としての地域政策が確立されていない現状は、選挙対策として、国会議員（国政候補者）、地方議員、党員・サポーターが共通の協力態勢を構築し、あるべき地方政策のあり方を議論・検討し、その態勢を確立していくことから再出発していかなければならない。

### ■理念と連動した政策発信力の強化

- 政策よりも政局優先、民主党バッシングの強い論調が優勢となる中で、それを越える代表、幹事長の発信力が不足していた。
- 役員室に企画機能を付与するなど、戦略的、一歩先を行く情報発信を行い、代表をはじめとした党幹部の発信力を高めるべきである。
- 政権与党の発言、行動を詳細にチェックし、適宜適切に普及の矢を放つことができるよう、機動的に対応できる体制の確立を検討していかなければならない。

### ■改革創生本部第 1 次報告の早期具体化

- 克服すべき課題は既に総選挙後の 2 月に取りまとめた「改革創生本部第 1 次報告」に整理されており、参院選が終わった現在、さらに補強し、加速して改革実行に取り組んでいく時である。
- 今後最大 3 年国政選挙がないとはいえ、地方選挙は各地で行われ、2015 年春には統一地方選挙も実施される。党改革に時間は残されていない。早期の具体化を行うとともに、早期に最終報告をとりまとめ、2016 年までを見据えて、国民の信頼回復・党勢再拡大に向けた着実な成果を上げるための工程表を明確に国民に示す必要がある。

	改選	非改選	比例区	選挙区	合計	新勢力	前勢力	増減
民主	44	42	7	10	17	59	86	▲27
自民	34	50	18	47	65	115	84	31
公明	10	9	7	4	11	20	19	1
みんな	3	10	4	4	8	18	13	5
共産	3	3	5	3	8	11	6	5
維新	2	1	6	2	8	9	3	6
社民	2	2	1	0	1	3	4	▲1
生活	6	2	0	0	0	2	8	▲6
改革	1	1	-	-	-	1	2	▲1
みどり	4	0	0	0	0	0	4	▲4
減税	0	0	-	-	0	0	0	0
諸派	1	0	0	1	1	1	1	0
無所属	6	1	0	2	2	3	7	▲4
計	116	121	48	73	121	242	237	

## 地域の議員として改革に正面から取り組む

# 「自治体政策フォーラム・愛知」 秋期セミナー開催



熱心に耳を傾ける地域議員

地方分権社会の構築と自治体議会の活性化をめざす、「自治体政策フォーラム・愛知」は9月7日、名古屋市内のホテルにて秋期セミナーを開催した。本年は参議院議員選挙が施行され、東海ブロック研修会が愛知県主催ということもあり、1日間の日程となった。

開催の挨拶では仲委員長（県会議員）より地域の議員として改革に正面から取り組む必要性が熱く語られた。

第1部では大塚耕平参議院議員（県連代表）により、「社会保障改革の行方」を議題に、財源確保を含めた社会保障の在り方について、橋本龍太郎元総理当時から現在に至るまでの変遷が説明された。また、①引退世代向

け保障給付の増大への対処、②現役世代向け社会ニーズへの対処、③深刻化する財源、④世代間不公平の拡大という4つの課題に対する改革の方向性が示された。

第2部では「リニア新幹線の効果と地域づくり」を議題に、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの加藤義人氏による講義が行われた。特に愛知県の発展性について、①時間短縮により、首都圏と濃密な交流ができる地域として、ビジネス・観光の両面で愛知を舞台とする活動が現在よりも活発化する。②新幹線ネットワークの2重化により立地のポテンシャルが向上。③世界初の超伝導リニアに世界が注目することから、愛知が国際交流の舞台となる機会が増えることの3つが挙げられた。

また、大都市と地方都市間の交通網が整備され便利になっても、地方の人口や資本が大都市に吸い寄せられるといった影響はさほどないと認識が示されたが、支社、支店の必要性がなくなる業種もある点も指摘された。



活発な議論を行う地域議員

第3部では「蒐集と資本主義～過剰に拍車をかけるアベノミクス～」を議題に、日本大学教授の水野和夫氏が講義を行った。資本主義の本質が「蒐集」（コレクション）にあり、それは必然的に過剰、過多に行き着くことをあらわし、過剰、過多を是正することをせず、拍車をかけることで成長を試みるアベノミクスに疑問を呈した。



水野和夫氏



加藤義人氏

今後の活動としては11月14日（木）～15日（金）の2日間にわたり、第11回東海ブロック地方自治体議員フォーラム研修会が愛知県で開催され、愛知、岐阜、三重、静岡の地域で活躍する議員が一同に集まる予定。